

主の日は盗人が夜くように来る

1. 「現代に対する神の警告」 各時代の争闘 第1章 世界の運命の預言 希望への光 P.1605

キリストの**再臨**に関するこうしたしるしを見る者は、「そのことが戸口まで近づいている」ことを知らなければならない（マタイ 24：33・英語訳）。「**目をさましていなさい**」と彼は勧めておられる（マルコ 13：35）。この警告を心にとめている者は、暗黒のうちに残り残され、その日が不意に彼らを襲うことはない。しかし、目をさましていない者にとっては、「**主の日は盗人が夜くように来る**」のである（I テサロニケ 5：2、3～5 参照）。

⑨ 上記、日本語訳は下記原文と表記が異なる。なお、サンライズミニストリー訳の「歴史と聖書の預言」(The Great Controversy＝各時代の争闘) の同力所は原文に忠実に翻訳されている※1。

[原文] Chapter 1—Destruction of Jerusalem The Great Controversy (1888 ed.)

Let men beware lest they neglect the lesson conveyed to them in the words of Christ. As he warned his disciples of Jerusalem's destruction, giving them a sign of the approaching ruin, that they might make their escape, so he has warned the world of the day of final destruction, and has given them tokens of its approach, that all who will may flee from the wrath to come. Jesus declares, "There shall be signs in the sun, and in the moon, and in the stars; and upon the earth distress of nations." [Luke 21:25; Matthew 24:29; Mark 13:24-26; Revelation 6:12-17.] Those who behold these harbingers of his coming are to "know that it is near, even at the doors." [Matthew 24:33.] "**Watch ye** therefore," [Mark 13:35.] are his words of admonition. They that heed the warning shall not be left in darkness, that that day should overtake them unawares. But to them that will not watch, "**the day of the Lord so cometh as a thief in the night.**" [1 Thessalonians 5:2-5.]

第1章 エルサレムの破壊 各時代の争闘 (直訳)

人々はキリストの言葉を通して伝えられた教訓を軽視しないよう注意すべきです。イエスは弟子たちにエルサレムの滅亡を警告し、迫り来る破滅の兆しを与えて彼らが逃れられるようにしました。同様に、イエスは世に最終的な滅亡の日を警告し、その近づきの兆しを与えて、望む者すべてが来るべき怒りから逃れられるようにしました。イエスは宣言します。「日と月と星には、前兆が現れます。地上では諸国民の苦難があります」[ルカ 21：25、マタイ 24：29、マルコ 13：24～26、黙示録 6：12～17]。イエスの再臨(来臨)を告げるこれらの前兆を見た者は、「来臨が近づいて、まさに戸口まで来ていることを知みなさい」[マタイ 24：33]。「だから、**目を覚ましていなさい**」[マルコ 13：35]はイエスの訓戒の言葉です。警告に耳を傾ける者は、暗闇の中に置き去りにされることなく、その日が不意に襲ってくることもありません。しかし、油断する者には、「**主の日は盗人が夜中に来るように来る**」のです。[I テサロニケ 5：2～5]

※1:「現代に対する神の警告」 歴史と聖書の預言 第1章 エルサレムの滅亡と世界の運命 P.35

(サンライズミニストリー訳、編)

いやしくも人間である以上、キリストのみ言葉の中に盛られている教えを、なおざりにする事がないように注意しなければならない。イエスはエルサレム滅亡について弟子たちに警告し、彼らが逃れることができるために、滅亡の切迫を示すしるしをお教えになった。そのように、彼は最終の滅亡について世に警告し、すべての者を来るべき怒りから免れさせようとして、その近いことを示すしるしをお与えになった。「また日と月と星とに、しるしが現れるであろう。そして、地上では、諸国民が悩み」とイエスは言われた(ルカ 21：25、マタイ 24：29、マルコ 13：24～26、黙示録 6：12～17 参照)。これら**再臨**の前兆を目撃する時、我々は「そのことが戸口まで近づいている」ことを知らなければならない(マタイ 24：33 英語訳→So likewise ye, when ye shall see all these things, know that it is near, even at the doors. そのように、あなたがたも、これらのことがすべて起こるのを見たら、それが戸口まで近づいていると知みなさい)。「**目をさましていなさい**」とは主の勧告するところである(マルコ 13：35)。この警告に留意する者は暗黒に取り残されることはない。その日が予告なしに彼らに臨むことはない。しかし目をさましていない者にとっては「**主の日は盗人が夜くように来る**」のである(I テサロニケ 5：2～5 参照)。

2. 「突然、予期しない時に戻って来られる」アドベンチストの信仰 第24章 キリストの再臨 P.594

キリストが戻ってこられるのを待ち望んでいる信徒たちは、**再臨**が近づくとそれに気づかされるさるでしょう（Ⅰテサロニケ 5：4～6）。しかし世の一般の人々にとっては、パウロが書いているように、「**主の日は盗人が夜来るように来る**。人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが生ずるように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない」（Ⅰテサロニケ 5：2、3、マタイ 24：43 参照）のです。

[原文] A **Sudden**, Unexpected Return. Chapter 24 The Second Coming of Christ

Christian believers, longing and looking for **Christ's return**, will be aware when **it** draws near (1 Thess. 5:4-6). But for the inhabitants of the world in general, Paul wrote, "**The day of the Lord so comes as a thief in the night**. For when they say, 'Peace and safety!' then sudden destruction comes upon them, as labor pains upon a pregnant woman. And they shall not escape" (1 Thess. 5:2, 3; cf. Matt. 24:43).

直訳：**突然**の予期しない再臨 アドベンチストの信仰 第24章 キリストの再臨

キリストが来られるのを待ち望むクリスチャン信者たちは、**キリストの再臨**が近づくと気づくでしょう（Ⅰテサロニケ 5：4～6）。しかし、世の一般の人々にとっては、パウロはこう書いています。「**主の日は盗人が夜来るようにやって来る**。人々が『平和だ、安全だ』と言っているその矢先に、妊婦に産みの苦しみが生ずるように、突然の滅びが彼らに臨みます。彼らは逃れることができません」（Ⅰテサロニケ 5：2～3、マタイ 24：43 参照）。

【参考】聖書にある「盗人のように」

テサロニケの信徒への手紙 I	5:2 盗人が夜やって来るように、主の日（＝再臨）は来る the day of the Lord so cometh as a thief in the night※2ということ、あなたがた自身よく知っているからです。
ペトロの手紙 II	5:4 しかし、兄弟たち、あなたがたは(光の子、昼の子であり※3)暗闇の中にいるのではありません(あなたがたは霊的に目覚めていて、神の真理を知っているのです)。ですから、 主の日（＝再臨）が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはないのです 。
ヨハネの黙示録	3:10 主の日は盗人のようにやって来ます 。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴かれてしまいます。 3:3 だから、どのように受け、また聞いたか思い起こして、それを守り抜き、かつ悔い改めよ。もし、目を覚ましていないなら、 わたしは盗人のように行くであろう 。わたしがいつあなたのところへ行くか、あなたには決して分からない。 16:15 ——見よ、 わたしは盗人のように来る 。裸で歩くのを見られて恥をかかないように、目を覚まし、衣を身に着けている人は幸いである。——

※2：盗人が夜やって来るように、主の日（＝再臨）は来る

夜中に盗人が何の前ぶれもなくやって来ると何のすべもなくどうすることもできません。同様に、「主の日」も、夜にやって来る盗人のように、人間が予期できていない時に突然来るという意味です。

→マタイ 24：43 このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。

[リビング・バイブル] マタイ 24：43～44 寝ずの番をしていれば、どろぼうに入られることもありません。同じように、日ごろの備えが万全であれば、わたしが何の前ぶれもなくやって来ても、少しも困ることはないはずです。

※3：光の子、昼の子

①エフェソ 5：8～9 あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。一光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。一

②Ⅰテサロニケ 5：5～6 あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。